

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	ベルシティの活性化させよう		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	なかまるしも		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択一		2. 学生
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	勝間田徠夢		
メンバー(公開)	小林莓花、菅沼楓華、木下沙也菜		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡ OK

<チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

『何』を

ベルシティを活性化させる

『だれ』が『だれ』に対して

裾野高校のボランティア部、協力者が主体となって活動します。若者を呼び寄せたいので今流行りの食べ物やものを中心にポップアップストアを開催したいと考えています。その際にはベルシティの協力も得ます。

こうして流行を取り入れたベルシティにはお客さんが集まり、その中には若者がたくさん含まれます。今お客さんとして来ているお年寄りの方も、若者の流行を知ること共通の話題が増え、世代間の会話が弾み、社会とのつながりが強化されます。

『いつ』

月に一回その時の流行りのものをポップアップする

『どこで』

ベルシティ館内

告知は SNS で発信したり、駅にポスターを掲示する

『どのように』

Instagram や TikTok など流行について知る

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

『なぜ』このアイデアが有効なのか

若者は流行に敏感だからです。

若者は流行りのものがあるととても興味を持ちます。事例として、大阪にあるベビタピでは種類豊富なタピオカや、特徴的なスイーツが販売されています。2019年に開業し、今でも流行り続けています。

そんな流行りを取り入れることでたくさんの若者を呼び寄せることができると言えます。

実現する意味

駅の近くにあるベルシティは運転免許がない若者でも行きやすい場所にあります。行きやすい場所にあるからこそ、その立地を活かし、たくさんのお客さんを集める必要があります。

裾野市の数少ない商業施設を活性化させることで市街からも人が集まる可能性が高まると考えます。

ベルシティのお客さんにアンケートをとったところ、駐車場が完備されているところが良いと答えたお客さんが15人中5人でした。1階と最上階に駐車場がありたくさんの車を止めることができます。このことから市街から車で来ても駐車に困ることはありません。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1、実現する主体

実現する主体は裾野高生で組織された、ボランティア部である。

支援団体は、ベルシティを想定している。

2、実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)の大まかな規模とその現実的な調達方法

ボランティア部の顧問である小舘先生

SNS を活用していくため各自のスマートフォン、ポスターに必要な紙、ペンなど

ポップアップストアを開催するために必要な資金は裾野市から寄付してもらう

3、実現にいたる時間軸を含むプロセス

■これまでの時間軸

5 月 裾野市の課題の学習

6 月 課題に対する仮説

7 月 ヒアリング内容検討

9 月 ベルシティヒアリング(従業員向けアンケート実施)

10 月 お客さん向けアンケート実施

11 月 まとめ

■これからの時間軸

2024 年度 若者の流行り調査(毎月実施)

2025 年度 ポップアップストア開催に向けてベルシティの清掃手伝い、SNS やポスターを使って宣伝

2026 年度 ポップアップストア開催(月に一度ものを変える)